

研究開発活動

未来創発の源

当社の創業者である故佐藤彦八はセラミック素材の研究者であり、当社は創業以来、素材の開発から出発して製品化を行うことを信条としてきました。これは当社の強みでもあり、多くの「世界初」の商品をこれまでに生み出してきました。

当社グループは、これまで培ってきた数々の要素技術にさらに磨きをかけ、エレクトロニクス機器の進化に貢献する商品を創出するべく研究開発に取り組んでおり、特に、最先端・高信頼性のスマート商品開発と、ソリューション提案による新事業の創出に注力しています。

スマート商品開発を通じたビジョンの実現

太陽誘電グループの目指す製品は「スマート商品」であり、私たちはその積極的な開発と安定供給に取り組んでいます。

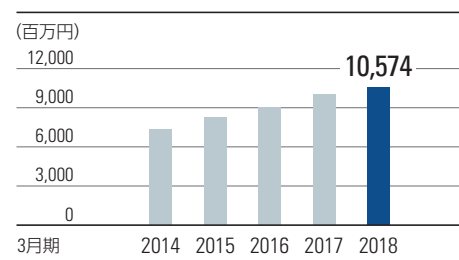
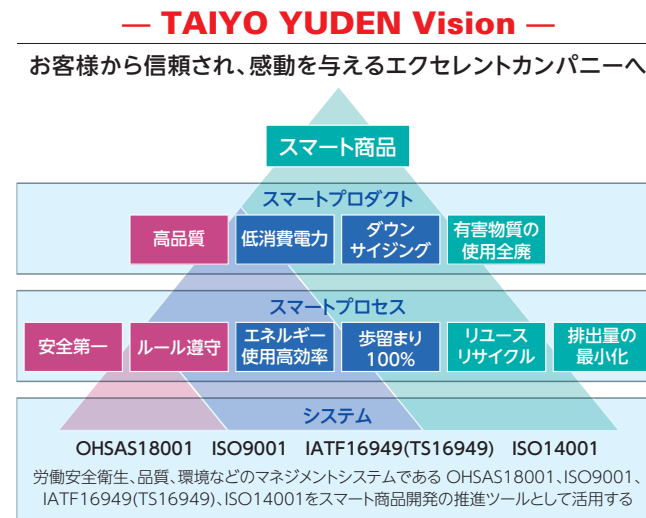
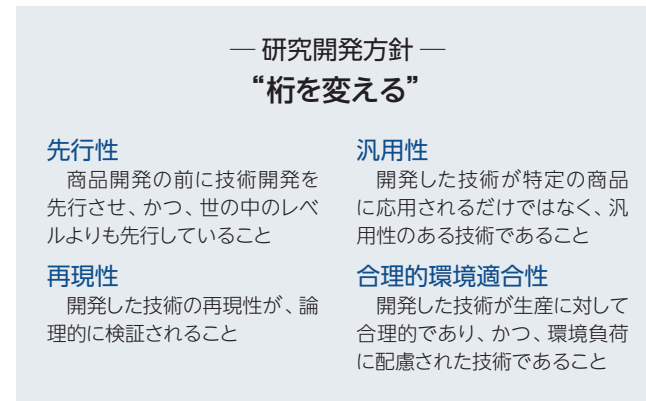
スマート商品とは、製品使用時の環境配慮だけでなく、設計から生産、販売、最終製品への搭載・廃棄に至るまで、製品のライフサイクル全体での「ムダ・ムラ・ムリ」を省き、お客様、地域社会、従業員にとって価値ある製品をつくることを意味します。

労働安全衛生、品質、環境などのマネジメントシステムを開発推進ツールとして活用した「スマートプロセス」、さらに使用や廃棄を考慮し、環境負荷を低減した「スマートプロダクト」の取り組みによって、スマート商品の開発に努めています。

当社グループでは、研究開発活動を通じて、スマート商品をより高い水準で実現することにより、「お客様から信頼され、感動を与えるエクセレントカンパニーへ」というビジョンを実現することが可能となると確信しています。

研究開発費

研究開発により技術を革新し続けることは当社グループの未来を創発するための源であると認識し、研究開発費には継続して一定の金額を投じています。



研究施設「R&Dセンター」(群馬県高崎市)

太陽誘電は「技術の太陽誘電、開発の太陽誘電」を標榜して、世界一となる商品を継続的に生み出し続けるため、R&Dセンターを1998年に開設しました。2003年には電波暗室棟を併設して無線通信分野への積極的な研究・開発を加速させ、現在も太陽誘電の開発力・技術力の源泉、未来への創発の礎となっています。



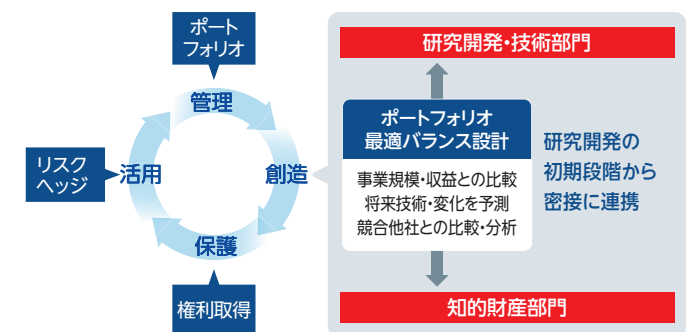
知的財産活動

基本方針

当社グループは、保有する知的財産権を適切に利用しその権利化および権利の維持に努め、第三者の知的財産権を尊重することを知的財産活動の基本方針として、当社グループ行動規範に則り、知的財産権の保護・活用に取り組んでいます。

知的財産権の保護に関する活動

他社に先駆けた研究開発活動を推進し、その成果を確固たる知的財産権として獲得するために、知的財産部門では研究開発の初期段階から、研究開発・技術部門と密接に連携した活動を推進しています。また、知的財産の創造・保護・活用を、それぞれの事業に最適化された独自のマネジメント手法で運用しています。



研究開発トップインタビュー

バックグラウンドの違いを活かし、新たな研究スタイルを確立

太陽誘電は、コア事業がセラミックコンデンサであることから、無機材料であるセラミックス技術をバックグラウンドに持つ人材がこれまで開発研究所長を務めてきました。その中で昨年度、有機化学を専門とする研究者である私が所長に就任したのは、会社が今までと違う研究スタイルを期待しているというメッセージだと感じています。

就任にあたり研究所全体に対して感じたのは、「5年先、10年先を見据えたテーマが少ない」ということです。研究開発において、今を支える開発と未来を築く研究がほどよくバランスしていないと企業は存続していきません。新しいことに取り組む「創発」をこれまで以上に重視していく必要があると感じています。

新しいことを手掛けるには、やはり日常と異なる環境

で考えてみる必要がありますし、それを評価の対象とすることも大切です。新たな研究スタイルの確立に向けて、必要な環境整備を行い、中長期的な価値創造に貢献できる研究開発部門にしたいと考えています。



開発研究所長
平國 正一郎